

第Ⅱ期 広島県中山間地域振興計画

ひと。しごと。暮らし。 ずっと先の未来につなごう。



第I章 総論

■ 策定の趣旨

将来に向けて持続可能な中山間地域を実現していくため、平成25(2013)年10月に制定した「広島県中山間地域振興条例」に基づき、翌年12月に「広島県中山間地域振興計画」を策定し、《人》、《仕事》、《生活環境》の三つの柱に沿った関連施策を総合的に展開してきました。

しかしながら、この間も中山間地域の人口減少は続き、国による将来推計では、今後も、その傾向は一段と厳しさを増していくことが見込まれています。

こうした状況にあっても地域の持続可能性を高めしていくためには、現実を直視し、変化に対応できる新しい地域づくりへの道筋を見出していかなければなりません。

このような認識の下で、本計画は、中山間地域の目指す姿を県民の皆様と共有し、県民、市町、県が連携、協働しながら、持続可能な中山間地域の実現に向けて、ともに行動を起こしていくための基本計画として策定するものです。

■ 計画期間

令和3(2021)年度～令和7(2025)年度 (5年間)

■ 将来にわたって目指すべき中山間地域の姿

里山・里海に象徴される人と自然が作り出す中山間地域ならではの資産が、守るべき価値あるものとして、内外の人々により引き継がれる中で、

地域への愛着と誇りの高まりが、将来への希望と安心につながり、心豊かに、笑顔で幸せな生活を営むことができる中山間地域

■ 5年後の目指す姿

中山間地域ならではの資源や特性が再認識されるとともに、地域の価値ある資産として再構築され、大切に引き継がれています。

また、その魅力や豊かさに共鳴し、地域に愛着と誇りを持つ内外の多様な人材によって、将来への「夢や希望」を託す、様々なチャレンジが始まっています。

■ 中山間地域を取り巻く環境

人口減少の加速

中山間地域では、県全体を大きく上回るスピードで人口の減少傾向が続いています。

その傾向は、今後更に加速し、平成27(2015)年から令和27(2045)年までの30年間で、県全体の人口減少率は15%と推計されている中で、全域が中山間地域（全域過疎市町）の10市町では総人口が24万人から14万人まで減少し、減少率は県全体を大きく上回る40%になると推計されており、中山間地域における人口減少の加速は、避けられない状況に直面しています。

こうした中で、今後、農林水産業などの既存産業の衰退や医療・買物・交通など、生活を支える機能・サービスの廃止・縮小等が続くと、将来への明るい展望が描きにくくなり、人口減少にさらに拍車をかけるという「負の連鎖」となって、地域の維持・存続や価値の継承が困難になり、地域社会の持続可能性に大きな影響を及ぼすことが懸念されます。



デジタル社会の到来

「Society5.0」の到来を踏まえ、国においては、AI/IoTなどの革新的技術を様々な分野に展開し、これまでになかったビジネスモデルや新たなサービスなどを通じて、人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させるデジタルトランスフォーメーション（DX）を進めていくこととしています。

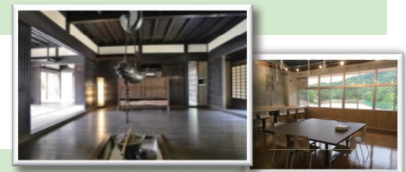
こうしたデジタル化の進展は、中山間地域における距離のハンディキャップやマンパワー不足などを「克服できる可能性」を秘めており、交通、医療、介護、福祉等の生活サービスの維持・確保に向けて、デジタル技術を暮らしの中にどう取り込んでいけるかが重要な課題となります。



ウィズ/アフターコロナ時代の新しい価値観

新型コロナ危機により、これまでの「集中」を前提とした生活様式やビジネスの在り方が見直されており、デジタル技術を取り入れたサービスの普及と相まって、時間や場所にとらわれない多様な働き方や暮らし方が、これまで以上に注目されています。こうした中で、里山・里海の豊かな自然と共生し、かつ都市に近接して適切に分散化された本県の中山間地域は、過密化した大都市圏からの移住ニーズや企業の分散需要を満たす有力な選択肢となってきます。

このため、こうした高まりつつある機運を積極的に取り込み、本県の中山間地域が、ウィズ/アフターコロナ時代にふさわしい生活の豊かさを先取りできる地域として広く認知され、そこに暮らし続ける方々にとっても、地域の価値を改めて実感していただくことによって、地域への愛着や誇りの高まりにつなげていく好機としていくことが求められます。



第Ⅱ章 施策の推進方向

多様な力でつながる人づくり

目指す姿

- ◆ 地域に愛着や誇りを持つ人たちの一歩踏み出すためのチャレンジが次々と起こり、共感の輪が生まれています。また、地域に根差したリーダーが育ち、多様な人材のネットワークによって、地域資源を生かし、新たな価値を生み出す主体的な活動が展開されるとともに、地域の価値に共鳴する人たちの外部からの移住が進んでいます。こうした中で、コミュニティの力の再生に向けて、誰もが必要に応じて活躍の機会を得られる地域運営の新しい仕組みが構築され、地域の課題解決につながるモデル的な取組が始まっています。
- ◆ また、地域の資源と呼べるスポーツを通じて、地域ならではの特色を生かした取組が始まり、参加や交流を通じて、自らの地域に愛着や誇りを持つ人々が増え、地域アイデンティティが高まってきています。
- ◆ さらに、次代を担う子供たちには、学校と地域が連携して、未来を創る人材としての資質や能力を伸ばす機会が確保され、地域に誇りを持ち、将来の担い手として育成される環境が整いつつあります。

協働・連携・交流

(1) 多様な主体による
自主的・主体的な地域づくり

- 地域における《つながり力》の強化と人材の育成・ネットワークづくり
- 持続可能な地域運営の仕組みづくり
- スポーツを通じた地域活性化
- 優れた文化遺産や伝統文化等に触れる機会の充実

移住

(2) 若い世代を呼び込む
地域環境の創造

- 東京圏等からのU I ターン等の促進
- 地域特性を強みとして生かした受入態勢の強化

教育

(3) 地域を誇り
未来を創る人材を育てる教育

- 地域の次代を担う人材の育成
- 地域の内外から選ばれる魅力ある学校づくり
- 里山・里海体験の推進

主な参考指標	令和元年度（現状）	令和7年度（目標）
◇「ひろしま里山・チーム500」の登録人数	345人	680人
◇県外からのU I ターン転入者数（全域過疎市町）	271人	301人
◇地域に貢献しようとする意欲を持っている 中山間地域の県立高校生徒の割合	62.7%	80.0%

夢をカタチにできる仕事づくり

目指す姿

- ◆ 中山間地域に暮らしながら、働き続けられる環境が維持され、多様な企業や人材が、地域ならではの資源や基盤を生かして、新たな事業にチャレンジしています。
- ◆ とりわけ、中山間地域の基幹産業である農林水産業では、デジタル技術を導入しながら生産性を向上させ、地域資源や雇用労働力を有効に活用しつつ規模拡大に取り組むなど、持続可能な企業経営にチャレンジする担い手が増加しています。
- ◆ 観光面では、サイクリング、カヤックなどの体験や地域で育まれてきた伝統芸能の鑑賞、情緒あふれる古民家での宿泊体験など、中山間地域の資源を生かした観光サービスや観光商品等が充実し、国内外からの多くの観光客が周遊しています。

農林水産業

(1) 生産性の高い持続可能な農林水産業の確立

- 農業 ～地域の核となる力強い経営体の確保・育成
- 畜産業 ～持続可能な広島和牛生産体制の構築
- 林業 ～森林資源経営サイクルの構築・森林資源利用フローの推進
- 水産業 ～持続的かつ安定的な水産資源の生産供給体制の構築
- 持続的な農業生産活動の推進

事業展開・創業支援

(2) 地域特性を生かした事業展開や創業の促進

- 新たな事業展開に向けたチャレンジ支援
- 中小企業の成長支援
- 雇用機会の創出・就業促進
- 地域資源の販路・消費拡大

観光

(3) 地域資源を生かし、つなげる、魅力ある観光地づくり

- 国内外の観光客に向けた観光資源の磨き上げと周遊促進
- 観光資源をつなぐ道路ネットワークの形成

主な参考指標	令和元年度（現状）	令和7年度（目標）
◇農業生産額〔※畜産を除く〕	712億円(※H30)	736億円
◇外部人材を活用する中小企業数（全域過疎市町）	—	290社
◇年間総観光客数（全域過疎市町）	1,543万人	1,709万人（令和4年目標と同水準を維持）

安心を支える生活環境づくり

目指す姿

- ◆ 医療・介護の資源に限りがある中で、安心して質の高い医療を受けることができるよう、基幹的なへき地医療拠点病院が中心となった、他の中小規模の医療機関への医師派遣や広域的な人材育成などを通じた地域の医療機関のネットワークの構築、デジタル技術を活用した診療支援等により、医療提供体制の強化が進んでいます。
- ◆ また、介護を必要とする人も、住み慣れた身近な地域で安心して暮らすことができるよう、要介護者の状態に応じて、地域の医療・介護関係者が連携した最適な組み合わせで、在宅医療や介護サービスなどが提供されています。
- ◆ 地域や関係団体、企業、行政が連携して、日常生活に直結する様々なサービスについて、デジタル技術を活用して効率的に提供するための仕組みづくりが進み、スマートな里山づくりに向けたモデル的な取組が中山間地域全域に広がり始めています。
- ◆ とりわけ、交通アクセスについては、広域的な道路網と地域内の交通基盤が整備され、地域と都市を結ぶ広域幹線交通が維持されているとともに、新たな交通サービスの普及と地域の実情に応じた交通再編が進み、買物や通院等の日常生活の移動が確保されています。
- ◆ ネウボラを通じた子供や子育て家庭を支援する環境の構築に向けて、ほぼ全ての市町にネウボラの拠点が設置され、子育て家庭に関わる関係機関と市町のネウボラ拠点との間において、必要な情報が共有されています。
- ◆ 里山・里海の豊かな自然環境や水源かん養などの機能が、引き続き、維持・保全されています。また、災害を未然に防止し、局地的豪雨や地震、高潮等による災害時の被害を最小限にするための防災施設の整備が計画的に進むとともに、災害から命を守るための行動が実践されています。
- ◆ また、新型コロナ等による健康危機事例を踏まえ、平常時から健康危機の発生を未然に防止するための監視業務が適切に行われるとともに、緊急事態に備えた医療提供体制など、健康危機に適切に対応するための仕組みが構築されています。

医療・介護

(1) 地域医療・介護
提供体制の確保

- 医師等医療従事者の確保・育成
- 医療連携体制の維持・強化
- 地域包括ケア体制の確立

居住環境

(2) 地域特性に応じた
居住環境の整備

- デジタル技術を活用した暮らしの向上
- 持続可能な生活交通体系の構築
- 社会環境の変化に対応したライフラインの維持
- 中心地と周辺地域等の連携を支える基盤整備
- 交番・駐在所による地域の治安の確保
- 老朽空き家対策の推進

子育て支援

(3) 子育て環境の充実

- 妊娠期からの切れ目のない見守り・支援の充実
- 子供の居場所の充実
- みんなで子育てを応援

環境保全

(4) 里山・里海の環境保全

- 森林の公益的機能の維持・発揮
- 地域資源を活用した再生可能エネルギーの利用促進
- 生物多様性の保全
- 廃棄物の適正処理と海洋プラスチックごみの流出防止

危機管理

(5) 危機対処能力の向上

- 災害対処能力の向上
- 健康危機対応能力の強化
- インフラ老朽化対策の推進

主な参考指標	令和元年度（現状）	令和7年度（目標）
◇医療施設従事医師数（全域過疎市町）	人口10万人対 195.1人(※H30)	人口10万人対 217.1人以上
◇デジタル技術を活用した課題解決モデルの創出	—	10件以上
◇安心して妊娠、出産、子育てができると思う者の割合 （ひろしま版ネウボラを実施している市町）	80.0%	86.0%
◇手入れ不足の人工林の年間間伐面積	617ha	1,050ha
◇避難の準備行動ができている人の割合	13.6%	50.0%

■ 基本姿勢

地域の基盤や特性を強みとして生かす

人のつながりや自然の豊かさなど、それぞれの地域が持つ資源や特性を「強み」として再認識し、眠っていた価値を引き出していくことによって、地域の価値向上につなげていきます。

価値に共鳴する人を増やし、支え合いを安心につなげる

中山間地域の「価値を維持・向上させる」ことの大切さに共鳴する多様な人材を地域内外で増やし、ともに地域の未来をつくる存在として認め合い、支え合うことによって、安心の醸成につなげていきます。

デジタルの力を取り込む

将来にわたって安心して暮らしを営むための新たな力となり得るデジタル技術を中山間地域の暮らしの中で分野横断的に実装することによって、新しい時代に対応した暮らしのモデルを創出します。

■ 推進体制

地域づくりの原動力となるのは、個人、団体を問わず、地域を第一線で支える県民一人ひとりです。このため、「目指すべき姿」の実現に向けて、県民の自主的かつ主体的な取組を基本に、県民、市町、県が密接な連携の下で、総力を結集して中山間地域の振興に取り組むことが重要です。

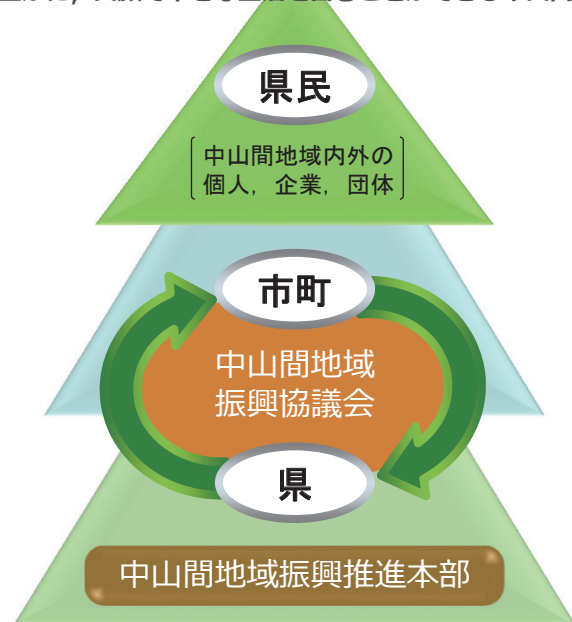
中山間地域振興協議会

知事と関係市町の長で構成し、中山間地域の振興に向けて、密接に協議、連携する中で、一体的な振興施策の推進を図ります。

中山間地域振興推進本部

中山間地域の振興を県政の重要な課題として、知事を本部長に、副知事、関係局長等で構成する協議の場を通じて、局間の連携、調整を行います。
また、中山間地域を取り巻く環境変化に対応して、新たな観点からの施策等の検討を局横断的に行います。

地域への愛着と誇りの高まりが、将来への希望と安心につながり、心豊かに、笑顔で幸せな生活を営むことができる中山間地域



広島県地域政策局中山間地域振興課

〒730-8511 広島市中区基町10-52

TEL:082-513-2636 (ダイヤルイン) FAX:082-224-1977

メールアドレス:chiikisupport@pref.hiroshima.jp (地域づくりサポートデスク)